



かわら版・創刊三周年記念 高校生特集

第二回目は、**矢板東高等学校**

生徒会の皆さんが記事を作成してくれました



毎年十月に開催され、矢東生だけでなく、市民や市内の高校に通う学生など、多くの方が楽しみにしている花火大会。楽しみである反面、疑問もあった。今回私たちは、この花火大会の疑問を探るべく、立ち上がった。

実行委員会の皆さんにインタビュー♪



- Q. 花火大会をはじめた年・きっかけは？
- A. 平成十九年から始まり、今年で四回目です。矢板市制施行五十周年記念プレ事業としてはじめました。
- Q. 花火によって変わったことは？
- A. 市外から矢板市を訪れる方が多くなりました。
- Q. この時期に開催する理由は何？
- A. 県内の花火大会の多くは、八月中旬に開催します。また、一部の地域では、五月〜六月中に開催します。特色を出すには「一番〇〇」と云うのが原則であり、矢板の場合は「県内で一番遅い」花火大会として知名度確保に励んでいます。

- Q. 花火がよく見えるお薦めスポットはどこ？
- A. 大会本部付近です。
- Q. 花火大会において心がけていることは？
- A. 市民力の結集と安全の確保です。開催するにあたって、大変なことは？
- A. Q. 大会の前準備や当日の様々な役割分担や、翌日の片付けや清掃のための人員の確保、関係機関への各種申請書類の作成です。
- Q. 花火の打ち上げ場所を変更した理由は？
- A. 実行委員会と矢板警察署で協議した結果、安全性の確保を最優先し、今年この場所に變更しました。
- Q. 開催の準備は何ヶ月前から？
- A. 約六ヶ月前からです。

矢東生の声を聞きました



毎年この花火大会を楽しみにしています。花火大会やお祭りは、八月とかで終わってしまうし、矢東のビックイイベントである矢東高祭も九月の始めなので、矢



東高祭の後の唯一の楽しみがこの花火大会なのです。花火大会のメインである打ち上げ花火は、さまざま種類のものがあって、楽しく見ることができました。中には、ドラえもんなどのキャラクター花火もあって、可愛かったです。とてもきれいだっただので、ついつい見惚れちゃいました。来年もまた、行きたいです♪

今年の花火大会は、実行委員会をはじめとする関係者の努力と、地域住民の協力で、去年以上の盛り上がりを見せた。打ち上げ花火は、多くの見物客を魅了し、大成功を収めた。主催者発表によると、今年の見物客は約八万人。去年よりも約一万人多かったという。矢板市の名物の一つである花火大会。来年も再来年も、きっと見物客を魅了することだろう。